

東京都 小池知事と東京商工会議所 小林会頭の対談動画

「東京の“ものづくり”を世界へ、そして未来へ」

東京や国内で作る工業製品等の調達・購入促進キャンペーン

- 1 この事業の主旨について
- 2 東京のものづくり産業の優れた点
- 3 都内工業製品の魅力
- 4 SusHi Tech Tokyo (Sustainable High City Tech Tokyo) について
- 5 世界情勢を受けての企業の取組
- 6 企業への都の支援策について
- 7 都民の皆様に向けたメッセージ
- 8 事業者の皆様に向けたメッセージ

1 この事業の主旨について

司会 今回のこの対談は、「東京や国内で作る工業製品等の調達、購入促進キャンペーン」という東京都の事業の一環とお伺いしていますが、知事からお話いただけますか。

知事 日本、東京の工業製品にはですね、本当に高い品質、優れた魅力があるのは誰もがご存じです。そこにウクライナの戦争や為替の関係などで、原材料の価格が値上がりし、輸入品の供給不安であるとか、ものづくり日本、ものづくり東京にとって、新しい次元にいま突入しています。

だからこそ、原材料など輸入から、都内、国内の調達に切り替えるという、ある意味ゲームチェンジを世界が日本に迫っている、東京に迫っているという風に考えたらどうかと思っています。

2 東京のものづくり産業の優れた点

司会 日本のもものづくり産業の優れた点や、ものづくりにおける都内中小企業等の可能性について、小林会頭はいかがお考えでしょうか。

会頭 我々、東京商工会議所も同じく、四面楚歌とは言いませんが、いろいろな、材料の値上がり、円安の問題等もありまして、非常に厳しい環境の中で、中小企業がこれから発展していかなければならないところです。私は23区の商工会議所を一つ一つ回っているところですが、びっくりしたのはこの東京都の就労人口、東

京都に来て働いている人は1300万人もいるということです。そのうちの4割、550万人は中小企業にお勤めです。そういう人たちの家族も入れると、1000万人以上の方々、その生活の向上のために、相協力してこれからやっていかなければならないと思っています。

さきほど知事がおっしゃいましたが、東京のものづくりの良さと言うと、我々の親の世代は「上等舶来」と言いました。これを「上等『都の製品』』というふうなことでこれから売り出していく。あるいは、イノベーションを行って生産性も高めて新しい企画、それからマーケティングをしながら、東京の製品を世に出していくということだと思います。

3 都内工業製品の魅力

司会 都内、国内製品の品質の高さや魅力について、知事にお伺いします。

知事 東京のものづくりというのは、まず基盤がしっかりしています。そして、歴史、伝統、匠の技が生きています。その精密度から言いますと、東京の町工場で作られている金属加工においては、本当にミリ単位というか、ナノ単位といってもいいかもしれません。そういった精密さが、仕上がりの美しさや、その正確さ、そういうものがパーツになって、半導体、自動車のほか、医療品などの幅広い分野で使われています。

都は「ベンチャー技術大賞」^{※1}という事業を行っております。最近日本のお茶は、抹茶も含めて、世界に結構広がっていますが、こういう葉の時にはどれぐらいの量のお茶葉を入れて、お湯の温度はどれぐらいがいいとか、実はそういうお茶のたしなみを、AIとIoTで行い、極上のお茶をいれるティーポット、これが今年度の優秀賞に選ばれています。こうしたものは、長年受け継がれてきた美意識や感受性を活かし、独自性、デザイン性の高い製品として、その魅力が際立つものです。

会頭 実は奇しくも私どもも同じような賞を出しております、「**勇氣ある経営大賞**」^{※2}といささか、少し大げさな名前ですが、例えば、テスラの自動車部品の一部、これがないと回らないような非常に重要な部品です。また医療機器の非常にその精密な部分にも使われています。こういった一歩踏み出して経営を行ったところに20年間にわたって毎年、大賞を出しています。ですから、都と同じようなアプローチで経営の支援をしていく、あるいはそういう経営を世に広めるということはお互い一緒にやってきているし、これからもやっていく価値は十分にあると思っております。

4 SusHi Tech Tokyo (Sustainable High City Tech Tokyo) について

知事 会頭ね、これ面白いですよ。東京の都市のイメージを、海外などでも含めて聞いてみたら、こんな感じになりました。これジャパンということではなくて東京ということに聞いているんですよ。なんと S U S H I がずいぶん上に来ている。東京イコール S U S H I。

今、社会、そして経済もサステナブル、持続可能でなければという話があります。サステナブルの最初の S U S はサステナブルといっしょで、ハイシティーテックとこれをいっしょにして、SusHi Tech Tokyo^{※3} (スシテックトウキョウ) というのを2月に始めようとしています。スタートアップをどうやって東京都から発信していくか、集めていくか、そしてそれを応援していくかということです。最近世界中でハイテクのスタートアップのイベントが行われています。でもまず東京ですよということで、SusHi Tech というネーミングにしたら、面白い、聞きたいという人がたくさん集まってくれています。ですから、これまでの伝統的な匠の産業に加えて、新しいスタートアップも育てていくことで、東京がいつまでも元気になる、それが日本経済を元気に保っていくポイントになると思います。

5 世界情勢を受けての企業の取組

司会 世界の情勢は変化し続けていると思います。世界情勢や円安の影響で、海外からの調達不安定になるなど事業活動に影響が生じるなかでの、企業の取組について、まずは知事にお伺いします。

知事 私も中東に暮らしたこともあり、そのときはオイルショックの原因となりました。73年の第4次中東戦争のちょうどそのど真ん中にいたのですが、あのころの状況を超えて、世界の情勢の見方というのが一次元、二次元だけでなく、三次元くらいの複雑さになってきているのではないかと感じています。一つ身近なところで挙げればロシア・ウクライナ情勢です。それがまた円安を伴って、そしてエネルギー情勢がからんできている。企業の事業活動に根本のところから影響が生じているわけです。国内回帰をこの際始めようという動きもかなり出てきております。海外に展開している中小企業が工場の立地を、もう一度都内や国内に戻すという流れを東京都として後押ししていく。それから円安ですけども、これまで競争力がないじゃないかと最初からあきらめてきた、簡単なところでいうと林業ですね。東京にも奥多摩など、森、林、山がございます。こういったところを伐り出すだけでコストが合わないということでしたが、むしろ、こういった一次産業でさえ、競争力が出てきている。これはまさにゲームチェンジをしないと今の世界の情勢が言っているのではないかと感じています。だからこそ海外販路の開拓ということも東京都は応援し

ていきたいと考えています。

会頭 我々が直面している、東京商工会議所でアンケートを取っても、円安で苦勞している企業が6割くらいあります。やはり円安の状況下で輸出を増やすことが重要ですが、残念ながら中小の輸出比率は3パーセントくらいです。これをもっと増やしていく。そのためには都の力を借りる。今、老齡化も進んでいて、企業を退職したけれども働くことができる方々もたくさんいらっしゃいますから、そういう人たちの力も借りて、マーケティングをする。一方で基本的には国内投資を活性化しないと、経済は膨張していきません。この二つ、国内回帰をしよう、国内投資を伴った国内回帰をしようということと、輸出を少し伸ばしていこう、この二つを今、重点施策としてやっているところでございます。

6 企業への都の支援策について

司会 海外からの原材料等の調達を、都内・国内からの調達に切り替えたい企業に対する、都の支援策についてお伺いしたいと思います。

知事 まずは、原材料価格が跳ね上がって、そして輸送費も高騰している。エネルギーがそもそも高いということなど、価格そのものの問題に対して、調達のアドバイザーによって支援を行うことを進めています。今、会頭からもお話がありましたように、民間企業を退職された方々は退職された後もお元気ですし、ノウハウもいっぱい持ってらっしゃいますから、そういった方々にアドバイザーとして積極

的に、また継続的に会社を訪問していただいて、「ここをこうした方がいいですよ」といったような、都内や国内から調達をする際のコツやメリットをアドバイスしていただきたいですね。

また、商談先の発掘、マッチングのサポート、これはまさに人脈です。それから、展示会などへの出展支援も東京都は行ってまいります。こういった支援によって、例えば、インテリア製品の原材料を、海外から都内の企業に切り替えたという事例も出ておりますし、今、ただただ頭を抱えているという状態ではなく、一步踏み出すことが必要だと思っていますので、東京都は支援をしていきたいと思っています。

会頭 どうせ新しいことやるなら一步踏み出して考えて、新しい地平を開いていく方が、達成感もあると思いますよ。そういう意味で、都のものづくり企業の、さきほど知事がおっしゃったPRとか、その辺も大々的にやっている最中ですし、是非一緒にそれらを展開していきたいと思っています。

司会 最後に、知事と会頭のお二人から、都民の皆様や都内の企業の皆様に向けたメッセージを頂戴したいと思います。

7 都民の皆様に向けたメッセージ

知事 優れた品質、魅力にあふれた製品をどうやって販路を広げていくのか。こうした工業製品等に光をあてるため、11月末から、ウェブサイト「FOCUS 東京製」を立ち上げ、作り手の想いを含め、数多くの商品を都としてご紹介するというお手伝いをさせていただいています。さらに、都民の皆様がお気に入りの国産品などで、これいいよとPRできるよう、SNSで写真やエピソードも紹介してもらって、広げていく。みんながセールスマン、セールスウーマンであるということだと思います。普段お使いになっている製品で、例えばこんないいものがありますよというものがあれば、SNSでの発信の機会をご活用いただければと思っています。実際に手に取って、そして日々の生活の中で使っていくことで、東京と日本のものづくりの未来にもつながっていくと思います。

会頭 今、知事がおっしゃったことで一番実感できるのは、特に中小企業、従業員の場合は、生産者であると同時に消費者ということなんです。そこで一言だけ、私は都民の皆様をお願いを申し上げたい。中小企業の生産の中で、賃金の割合は約80パーセントです。残りの20パーセントで税金を払って、設備投資をして、それから賃上げもしないといかない。これは大変困難なことです。したがって、価格の転嫁をしてその分で賃金を増やしていく、あるいは設備投資をしていくことになるわけですから、全体の経済のパイを動かすためにも、是非その辺にご理

解をいただきたい。逆境ですけれども精一杯、一生懸命やっておりますので、その辺のご理解いただきたいというのが私からのメッセージであります。

8 事業者の皆様に向けたメッセージ

会頭 それから、都内の事業者さんに関しては、ご苦労されていると。これは重々分かっておりますが、なんとかしてこれを都と連携して、支援をしていきたい。私は就任の時に「日本再生・変革に挑む」というスローガンで所信表明いたしました。特に「変革」に挑むということに是非勇気をもってやっていただきたい。そのためには、バックアップ、セーフティネットも含めて、私どもと都と連携して重々な援助、あるいは支援をやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

知事 優れた技術と柔軟な発想を持つ都内の中小企業の皆様こそが、東京のエネルギーの源泉であります。東京だけではありません、日本経済を牽引するということで、そして世界でも伸びていくことを期待しています。東京都も、東京商工会議所を始めとする多様な方々と連携しながら、機動的な中小企業支援策をここぞとばかりに展開したいと思いますし、東京、日本のものづくり、さらに磨きをかけていきたいと考えています。ともに頑張りましょう。

司会 本日はたくさんのお話をお聞かせいただきまして、ありがとうございました

- ※1：東京都が、都内中小企業がその技術力を活かして開発した、革新的で将来性ある製品・技術、サービスを表彰する制度
- ※2：東京商工会議所が、過去に拘泥することなく高い障壁に挑戦し、理想の追求を行うなど、“勇気ある挑戦”をしている中小企業等を顕彰する制度
- ※3：「Sustainability」と「High-Technology」をテーマとして、東京から世界に向け戦略的に発信する取組の共通コンセプト。

テキスト版については、読んだ時の分かりやすさを考慮し、言い回し等を整理しています。